

# 黒木西

黒木西小

学校だより

文書:校長 齋藤英義

令和4年9月21日(水)

NO.35



## R4 全国学力状況調査結果について

5月末に小学6年生・中学3年生を対象にした「全国学力・学習状況調査」が実施されました。そして、先月末、本年度の「全国学力・学習状況調査」の結果が届きましたので、ご報告させていただきます。

この調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に行われているものです。

内容は、「教科に関する調査」と「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」の2つで、そのうち「教科に関する調査」は国語、算数、理科となっています。

この「教科に関する調査」の結果は、全国の平均正答率を100とした標準化得点では、本校は99.10であり、全国平均とほぼ同水準であるという結果となっています。

本年度、学力が向上傾向になった要因としては、前年度、同調査の反省から、授業後に子どもに授業についてのアンケートをとって授業改善に活かすようにしたり、算数科を中心に、めあてとまとめを自分で書くことができるように指導を続けたりしたことが考えられます。

しかし、この取組で満足することなく、このたびの調査結果の提示をもとに、さらに結果を十分に分析・活用して、学力向上に向けた取組を一層充実させていきたいと考えています。

次に、「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」の結果についてです。

本校児童の良さと思われることは、「国語・算数・理科の勉強は大切である」「学習したことは将来役立つと感じている」「児童の割合が高く、学習することの意義をしっかりと持っている様子がかがえます。

そのため、多くの児童が苦手としている記述式の「教科に関する調査」の問題に対しても、「最後まで書く」としたり、分らない問題にも「諦めずにいろいろな方法で考えよう」としたりする児童が多く見られました。



しかし、「テレビやビデオを見る時間」「ゲームをする時間」が長い児童が多かったり、「自分で計画を立てて勉強する」児童の割合が低かったりする状況で、家庭学習の充実が必要であることがあらためて浮き彫りとなりました。このような実態から、学校では今後は学校・学年で課題を共有し、学力向上プランを見直し、指導方法の工夫改善を学校全体で組織的に進めていくこととしています。

また、「家庭学習の手引き」を活用しながら、家庭学習の充実を図るとともに、学習に向けた基盤づくりのために生活習慣を整えていくことにも力を入れていかなければならないと考えています。



しかし、一番の問題は、「自分には、よいところがあると思いませんか?」という質問項目に対して、「よいところはない」と感じている児童の割合が高く、いわゆる『自己肯定感』の低さが目立つ結果となったことです。

この自己肯定感については、学校だよりNo.22『要所を押さえる』でも書きましたが、単なる学校生活や学力だけの問題ではないと考えております。



子どもたちが、今後の人生を切り開いていく上で、「人間の土台であり一番の要所」になるものだと考えております。(学校ホームページの学校だよりのコーナーをご参照ください)

学校においても、学力の向上をめざすことと、子どもたちの自己肯定感を高めることは車の両輪であると捉え、職員全体で危機意識を共有し対応していきたいと考えております。

学校と家庭、地域のトライアングルの中で子どもたちは成長しています。学校の取組について、ご理解・ご支援をよろしく願いたします。



※ なお、6年生一人一人には、個人票をもとに、具体的に課題等について説明していく予定です。